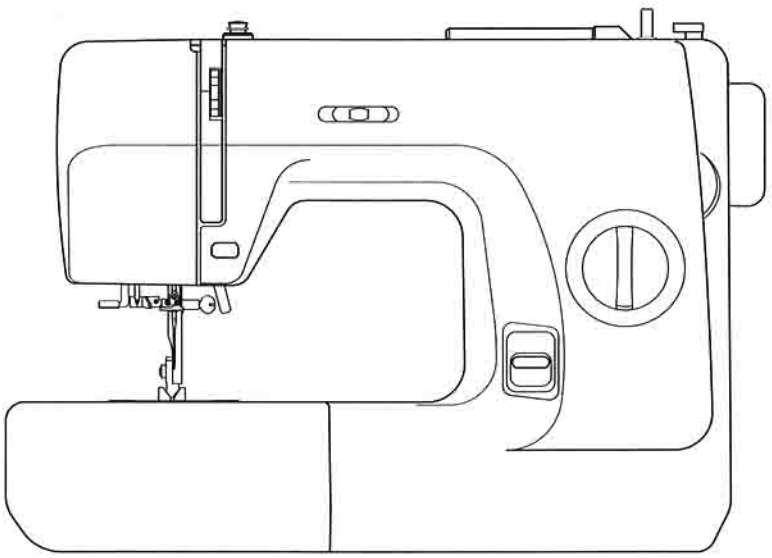
使い方の手びき

《取扱説明書》

COMPANION 4800



株式会社ジューキ

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行

一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。

必ずプラグを抜く

以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止

お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

禁　止

ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁　止

曲がった針はご使用にならないでください。

禁　止

フットコントローラーの上に物をのせないでください。

必ず実行

ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

必ず実行

針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行

お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。

必ず実行

以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
・押さえ、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸をセットするとき

必ず実行

電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。

必ずプラグを抜く

以下のことをするときは、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
・針、針板を交換するとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを抜く

ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

●目次

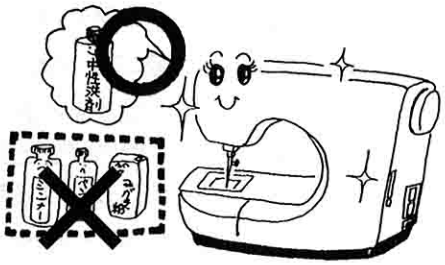
お取り扱いについてのお願い 2
●各部の名まえ 3
●筒ものをぬうとき（フリーアームぬい） .. 4
●標準付属品と収納場所 4
●操作方法 ..... 5～15
◎電源のつなぎ方 5
★スタート・ストップボタンを使用する場合 .. 5
★フットコントローラー（別売品）を使用する場合 .. 5
◎速さの調節 5
★スピードコントロールつまみ 5
★フットコントローラー（別売品） 5
◎スタート・ストップボタン 6
◎返しぬいレバー 6
◎押さえ上げ 7
◎押さえの取りかえ 7
◎押さえホルダーの外し方、付け方 7
◎送り歯のさげ方 7
◎各種押さえと用途 8
◎針の取りかえ方 9
◎布に適した糸や針を選ぶ目安 9
◎下糸の準備をしましょう ..... 10～11
★糸こまの取り付け 10
★ボビンの取り出し 10
★ボビンに糸を巻く 10
★ボビンをセットします 11
◎上糸の準備をしましょう ..... 12～14
★上糸をかけます 12
★糸通しの使い方 13
★下糸の引き上げ方 14
◎糸調子の合わせ方 15
◎ぬい模様選択ダイヤル 16
◎ぬい目長さ調節ダイヤル 16
◎スーパー模様の形の整え方 16
●実用ぬい ..... 17～27
◎直線ぬい ..... 17～18
★針板ガイドラインの利用 18
◎ジグザグぬい 19
◎ジグザグぬいたち目かがり 19
◎トリコットぬい 19
◎くけぬい（まつりぬい） 20
★ガイドの合わせ方 20
◎ボタン付け 21
◎ボタンホールぬい ..... 22～24
★ぬい目の長さをかえるとき 22
★ぬい方 ..... 22～23
★引き続きボタンホールぬいをする場合 24
◎ファスナー付け ..... 25～26
★ファスナー押さえの付け方 25
★準備（例：左脇あきのぬい方） 25
★ぬい方 ..... 25～26
◎シェルタック 27
◎アップリケ 27
◎ファゴティング 27
●ミシンのお手入れ ..... 28～29
◎かまと送り歯の掃除 28
◎内がまと針板の組み付け 28
◎ランプの取りかえ 29
●ミシンの調子が悪いときの直し方 30

お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

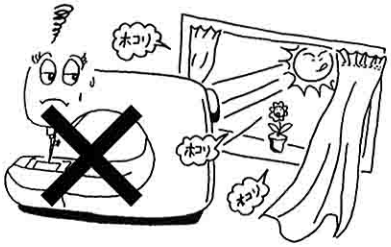


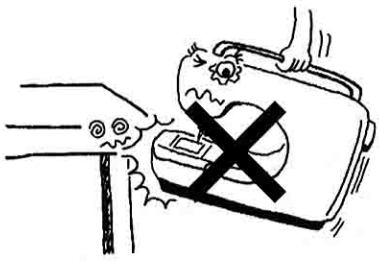
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところはさけてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

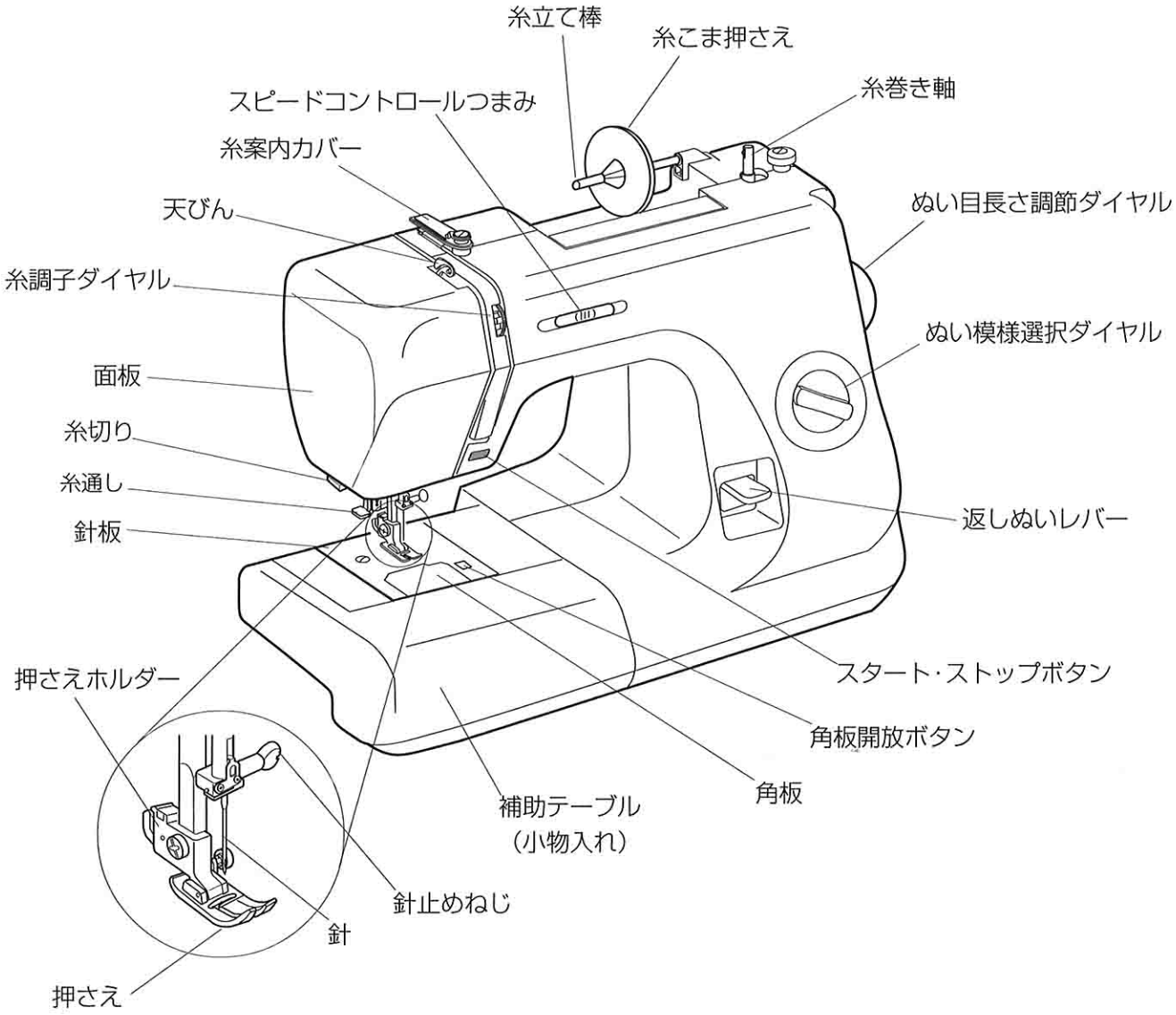


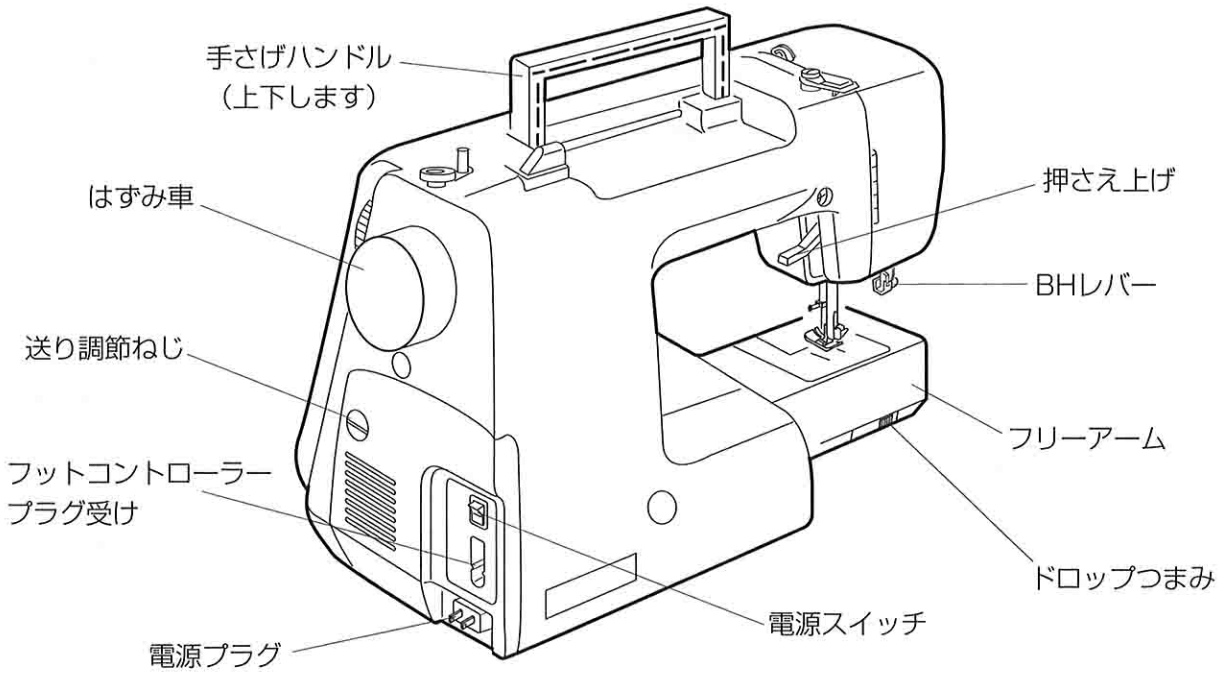


◇　修理・調整についてのご案内

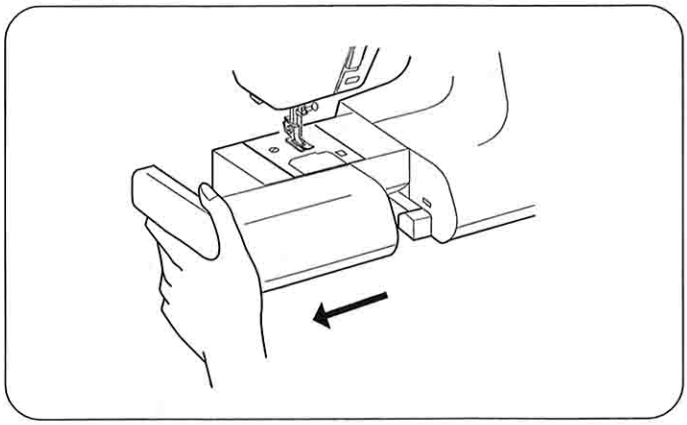
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（30ページ）により点検・調整を行ってください。

●各部の名まえ


糸立て棒
糸こま押さえ
スピードコントロールつまみ
糸巻き軸
糸案内カバー
天びん
ぬい目長さ調節ダイヤル
糸調子ダイヤル
ぬい模様選択ダイヤル
面板
糸切り
糸通し
針板
返しぬいレバー
スタート・ストップボタン
押さえホルダー
角板開放ボタン
角板
補助テーブル
（小物入れ）
針止めねじ
針
押さえ


手さげハンドル
（上下します）
はずみ車
押さえ上げ
BHレバー
送り調節ねじ
フリーアーム
フットコントローラー
プラグ受け
ドロップつまみ
電源スイッチ
電源プラグ

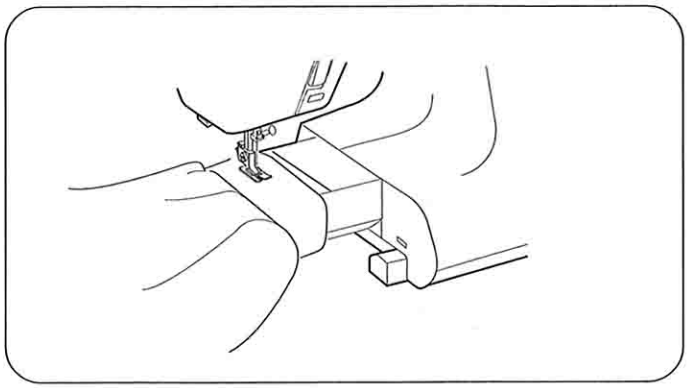
● 筒ものをぬうとき（フリーアームぬい）



筒ものをぬうときは、補助テーブルを外しフリーアームにします。

①補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

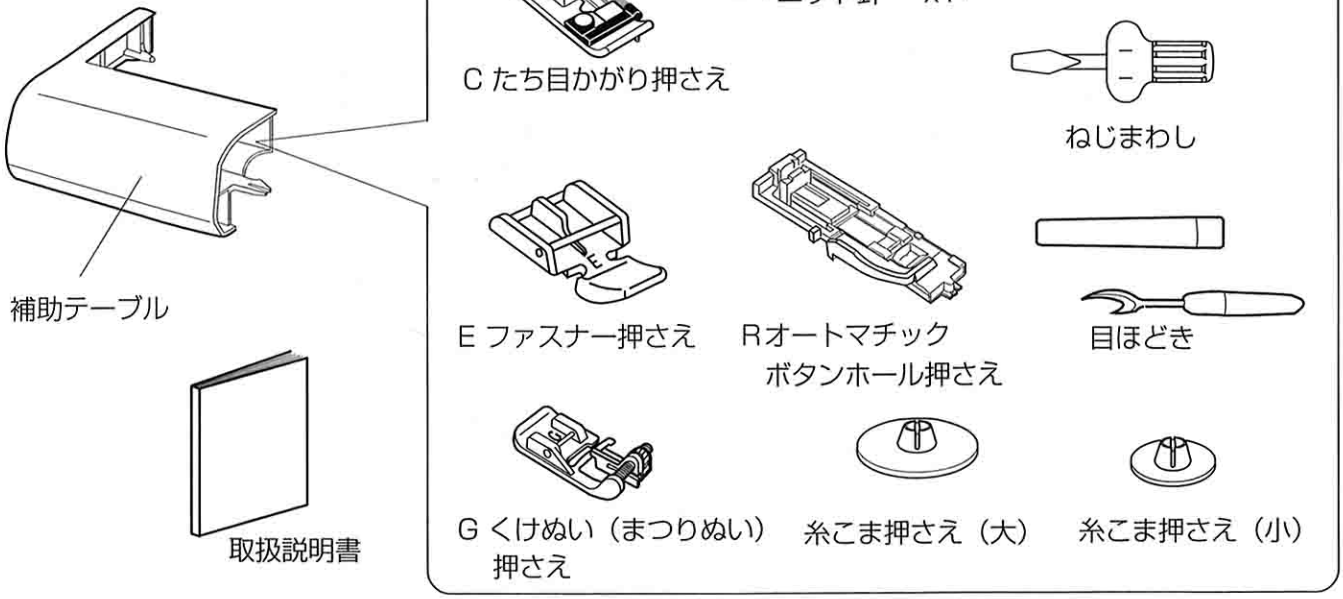
②ぬう部分をアームに通してぬいます。



袖口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

③ぬい終わったら補助テーブルを元にもどします。

●標準付属品と収納場所



●操作方法

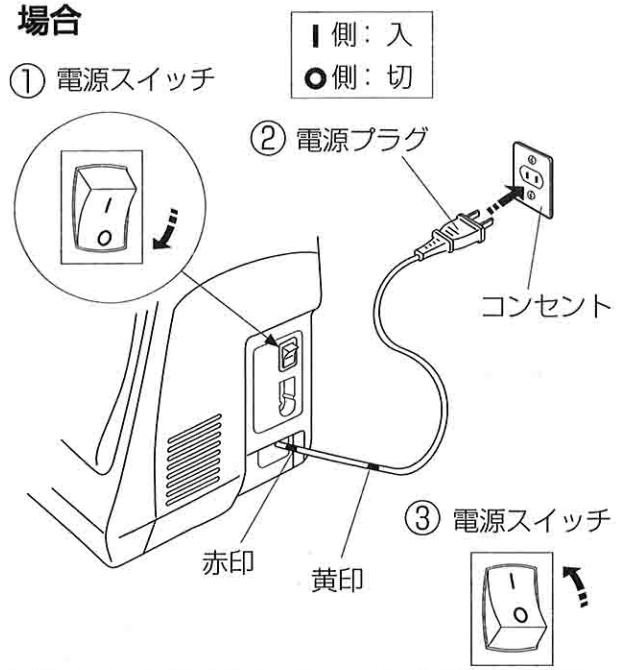
⚠ 警告

必ずプラグを抜く

・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
感電・火災の原因になります。

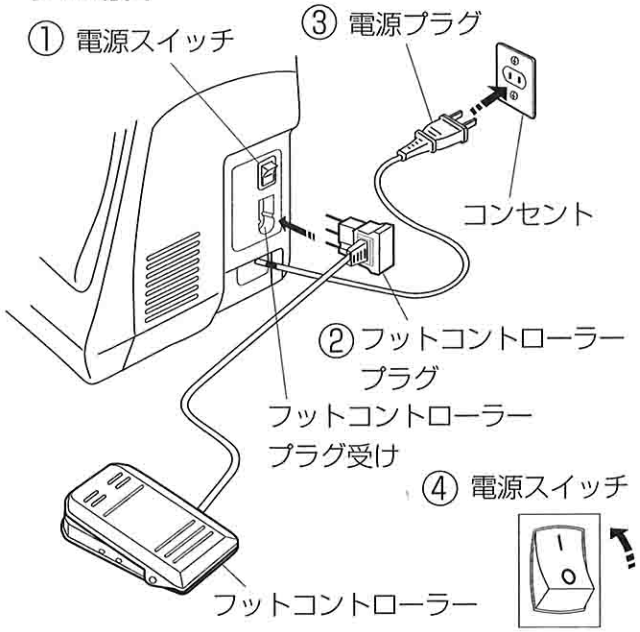
◎電源のつなぎ方

★スタート・ストップボタンを使用する場合



①電源スイッチの「O側」を押して「切」にします。
②電源プラグをコンセントに差し込みます。
※コードを引き出した時に黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。
③電源スイッチの「| 側」を押して「入」にします。

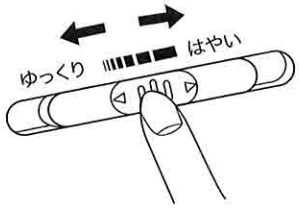
★フットコントローラー（別売品）を使用する場合



①電源スイッチの「O側」を押して「切」にします。
②フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
③電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
④電源スイッチの「| 側」を押して「入」にします。

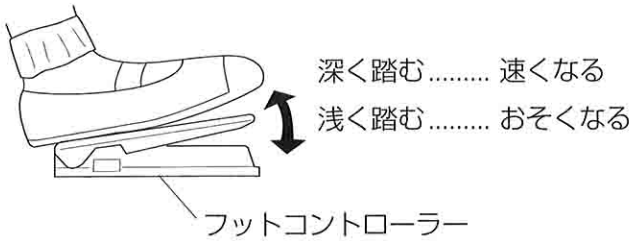
◎速さの調節

★スピードコントロールつまみ



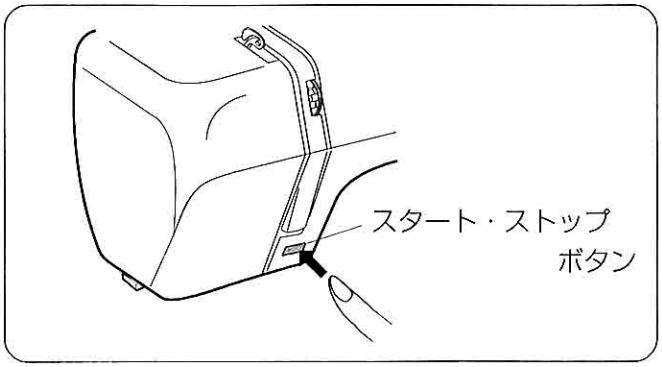
スピードコントロールつまみを左右に動かすだけでぬう速さは自由にセットできます。スピードコントロールつまみをお好みの速さにセットしてください。

★フットコントローラー（別売品）



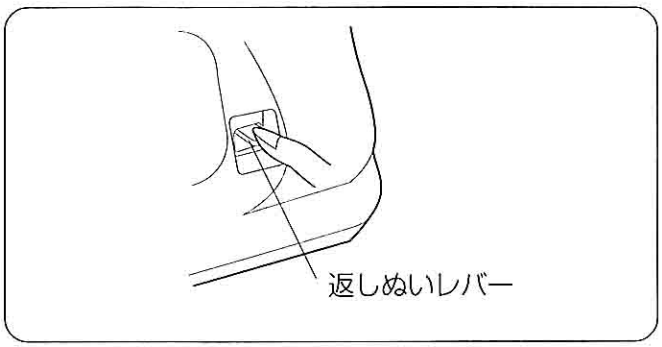
フットコントローラーの踏みかげんでぬう速さが調節できます。図のように、静かに足をのせます。重心をかかとにかけて、つま先で深く踏んだり、浅く踏んだりすると、ミシンの速度がかげんできます。
※スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。
※スピードコントロールつまみは、フットコントローラーをいっぱいに踏んだときの最高速度を調節します。

◎スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンはスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。もう一度押すと止まります。

◎返しぬいレバー

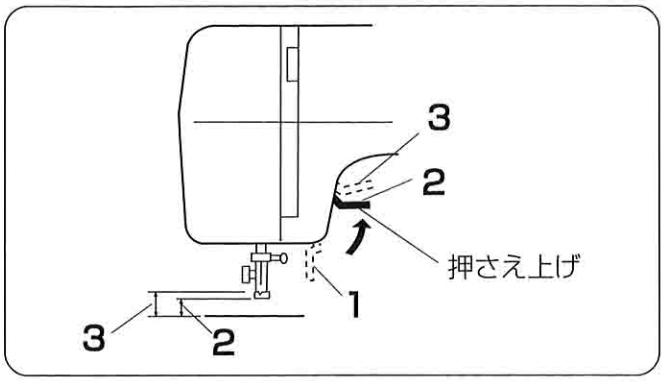


《ぬい始めの返しぬい》
返しぬいレバーを押すと、ミシンは低速で返しぬいを始め、指をはなすと止まります。

《運転中の返しぬい》
ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいにもどります。

⚠ 注意
不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますので注意してください。

◎押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげを行ないます。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚物の布を入れるときの補助リフトとして使用します。

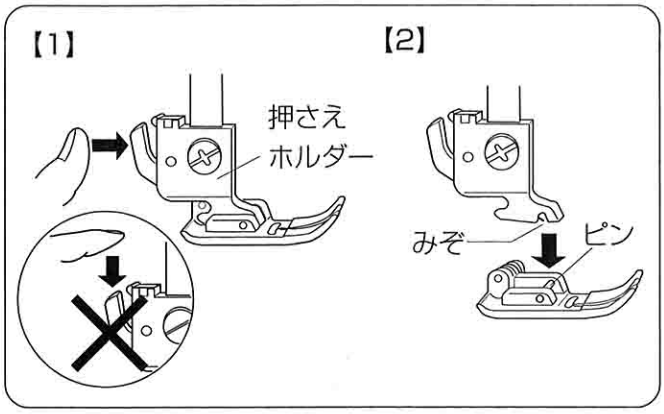
1さげた位置 ..... ぬうときには、さげておきます。
2普通にあげた位置 .... 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
3さらにあげた位置 .... 補助リフトで、厚物の布が入れやすくなります。

⚠ 注意

必ず実行

電源スイッチを切ってから行ってください。
また、押さえは模様に合ったものを使用してください。押さえが合っていないと、針が押さえにあたり**ケガの原因となり危険**です。

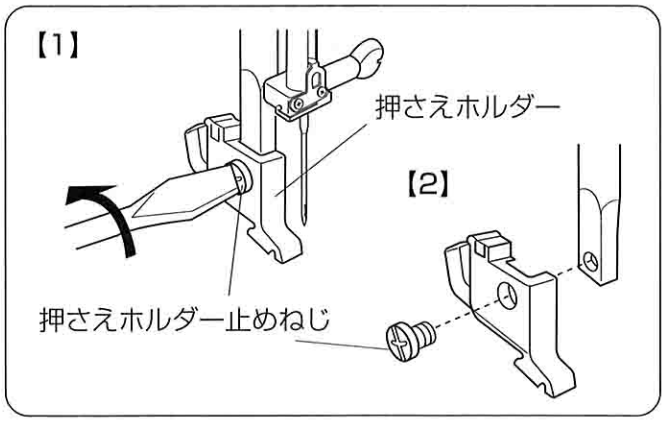
◎押さえの取りかえ



【1】外し方
押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを図のようにうしろ側から手前に押して、押さえを外します。
※レバーを上から押すと故障の原因になります。

【2】付け方
押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げを静かにおろし、ピンをみぞに入れます。

◎押さえホルダーの外し方、付け方



⚠ 注意

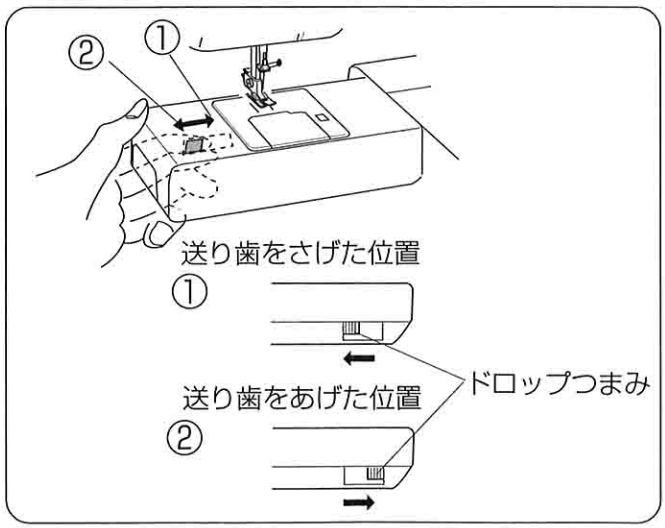
必ず実行

電源スイッチを切ってから行ってください。
ケガの原因となり危険です。

【1】外し方
押さえホルダー止めねじを左にまわして外します。

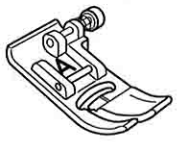
【2】付け方
押さえホルダー止めねじを右にまわして付けます。

◎送り歯のさげ方



ボタン付け、しつけぬいなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを右に動かします。
送り歯が針板よりさがり、布を送りません。

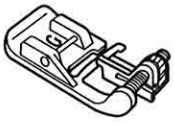
◎各種押さえと用途



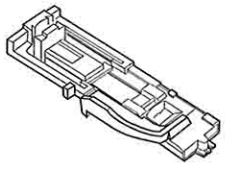
A：基本押さえ
直線ぬいを主に、地ぬいをするときに使用します。
糸締まりが良く、パッカリング（ぬい目がしわになる。）の発生にも強い形状をしています。

C：たち目かがり押さえ
たち目かがり専用の押さえで、布の端面での空ぬいに対応するよう右針落ち部をブラシ状にしています。

E：ファスナー押さえ
ファスナーをぬいつけるための特殊な形をしています。

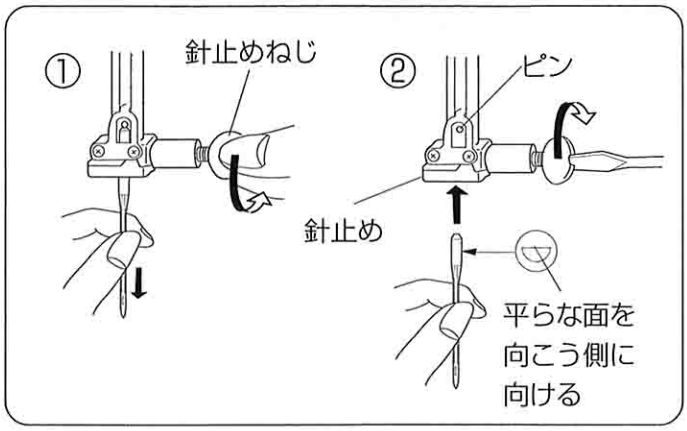


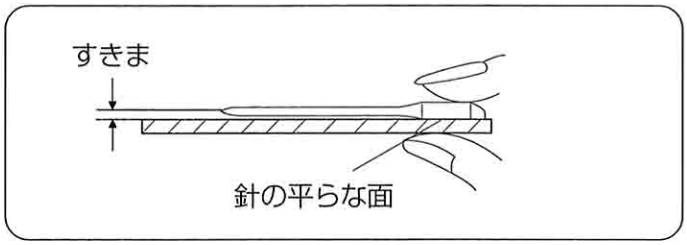
G：くけぬい（まつりぬい）押さえ
ぬい幅を一定にするためのガイドが付いています。



R：オートマチックボタンホール押さえ
ボタンホール専用の押さえです。

◎針の取りかえ方





⚠ 注意

必ずプラグを抜く

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。**ケガの原因になります。**

①針をあげ、押さえをさげます。
針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをねじまわしでかたくしめます。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

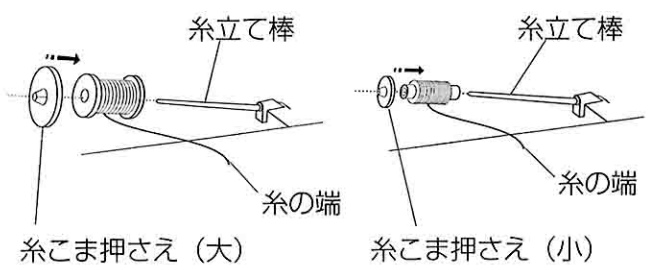
◎布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン ボイル	シフォンジョーゼット オーガンジー	デジン クレープ モスリン	スムーズニット地 トリコット地	ポリエステル90番	9番～11番
普通の布	ブロード サッカー ピケ	タフタ ファイユ サテン	ジョーゼット フラノ サキソニー	ジャガード ニット地	絹糸　50番 綿糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番
					綿糸　50番	14番
厚い布	デニム キルティング ギャバジン		ツィード ギャバジン コート地	ダブルニット地	絹糸　50番 綿糸　40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
					ポリエステル　30番 綿糸　30番	16番

※ 普通、上糸と下糸は同じ糸を使います。
※ うすい布には細い糸と細い針、厚い布には太い糸と太い針を使いましょう。
※ 針や糸は、実際にぬう布のはぎれを使って、必ず試しぬいをして確かめてみましょう。
※ ニット針（HA×1 SP#11)は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ニット地）や、目とびしやすい合・化繊地に効果があります。

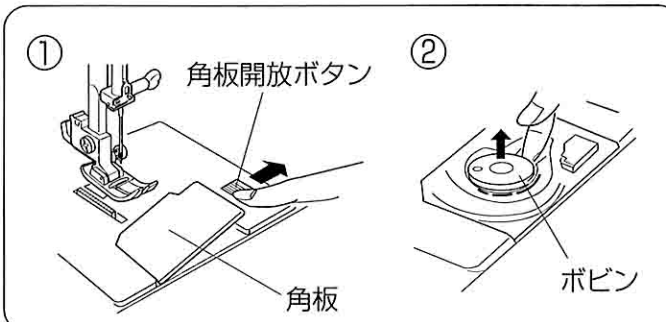
◎下糸の準備をしましょう

★糸こまの取り付け



糸立て棒に、糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。
※糸こま押さえ（小）は小さい糸こまに使用します。

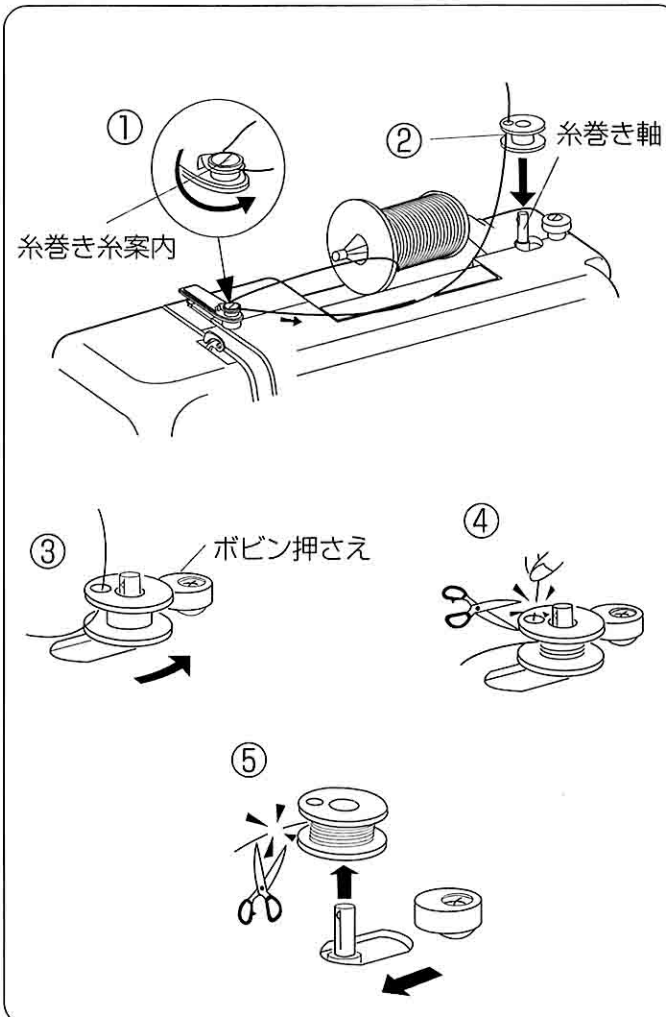
★ボビンの取り出し



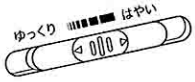
①角板開放ボタンを右にずらして角板を外します。

②ボビンを取り出します。

★ボビンに糸を巻く



糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置にしてご使用ください。



①糸巻き糸案内に、矢印にそって糸をかけます。
②ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

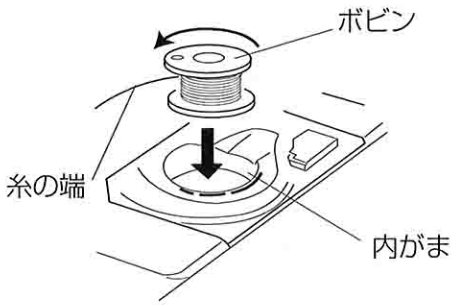
③ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。
④糸の端をつまんだままミシンをスタートして、ボビンに糸が2～3重ほど巻きついたら、ミシンを止めて、つまんでいる糸を切ります。

⑤再びスタートして、巻き終わったらミシンを止めます。ボビンを左にもどして、糸巻き軸から外し、糸を切ります。

※糸巻き軸を動かすときは、必ずミシンを止めてください。

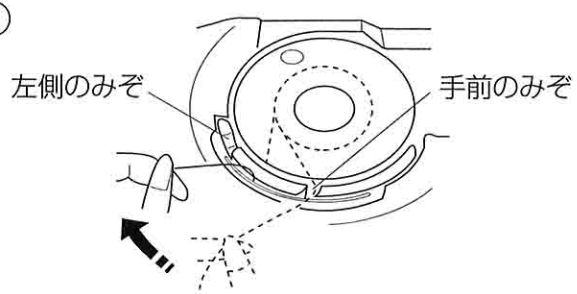
★ボビンをセットします

①



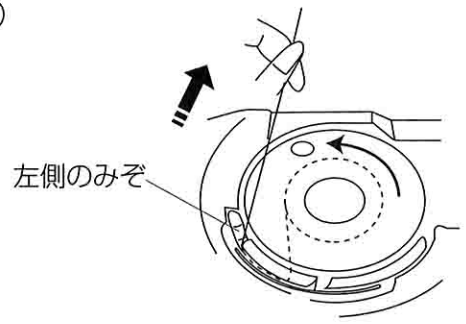
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

②



②糸の端を引きながら、手前のみぞにかけます。
糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞのところに出します。

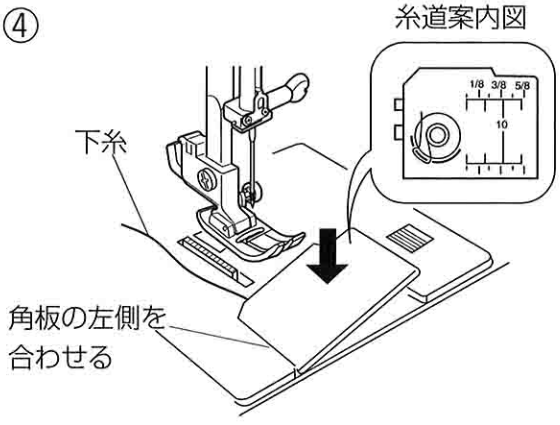
③



③糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。

※糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンを上下逆に入れかえます。

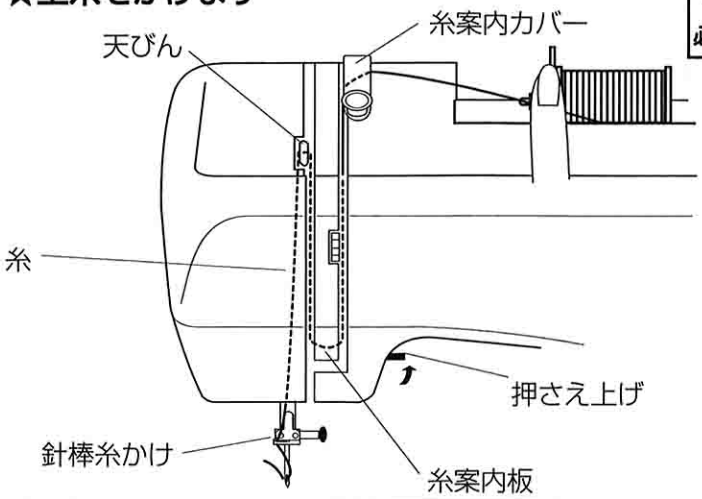
④



④下糸は10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

◎上糸の準備をしましょう

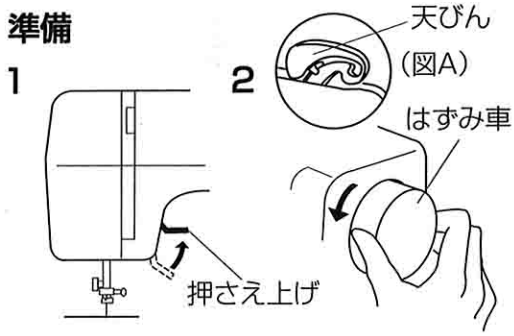
★上糸をかけます



⚠ 注意

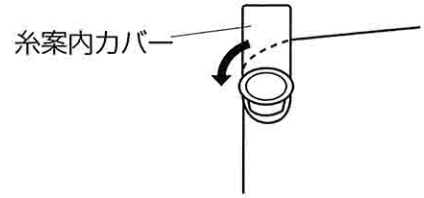
必ず実行 電源スイッチを切ってから行ってください。
ケガの原因となり危険です。

準備



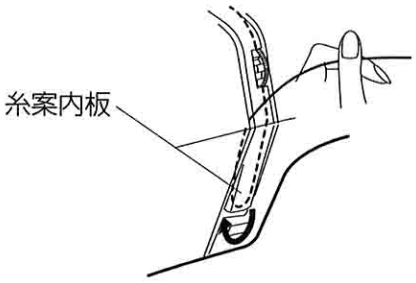
1押さえ上げをあげます。
2はずみ車を手前にまわし、天びんを上（図A）にあげます。

①



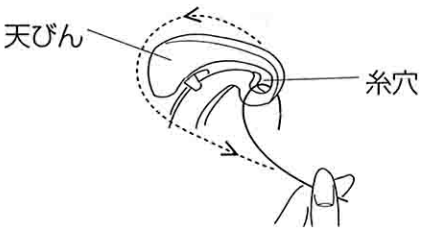
①糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押さえながら糸案内カバーの下にまきつけるようにしてかけ、糸案内板にそっておろします。

②



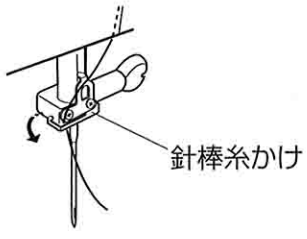
②糸こま側の糸を押さえ、糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。

③



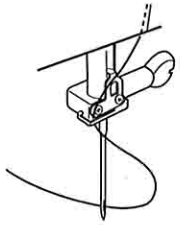
③糸こま側の糸を押さえ、天びんの右からうしろへまわして左に出し、手前に引き出してまっすぐ下におろします。
※糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

④



④針棒糸かけに左からかけます。

⑤



⑤針には糸通しを使って糸を通します。
（糸通しの使い方は、13ページをごらんください。）

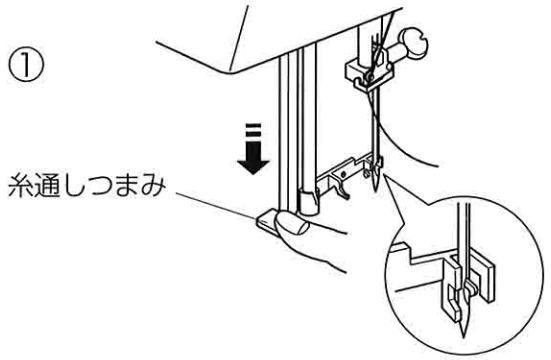
★糸通しの使い方

⚠ 注意

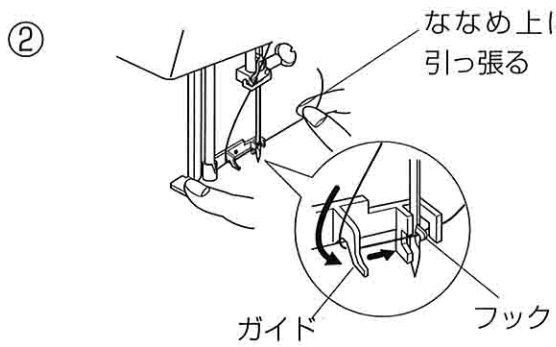
必ず実行 電源スイッチを切ってから行ってください。
ケガの原因となり危険です。

※この糸通しは、針 11 番～ 16 番、ミシン糸 50 番～ 90 番に使えます。
※押さえをさげます。

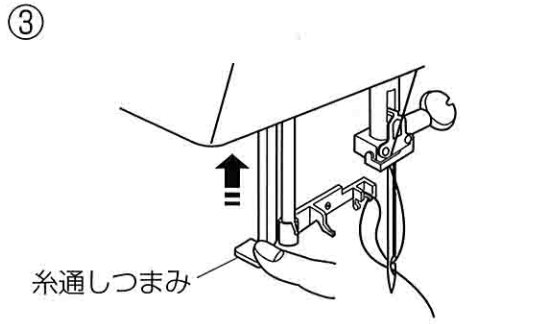
①針をいちばん上にあげます。糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげると、フックが針穴に入ります。



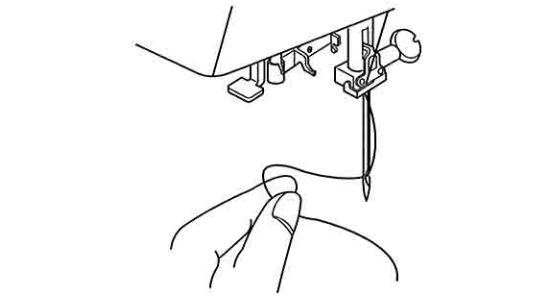
②糸を左側からガイドとフックにかけます。
糸がたるまないように、ななめ上に引っ張っておきます。



③糸を軽く持ち、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引き上げられます。

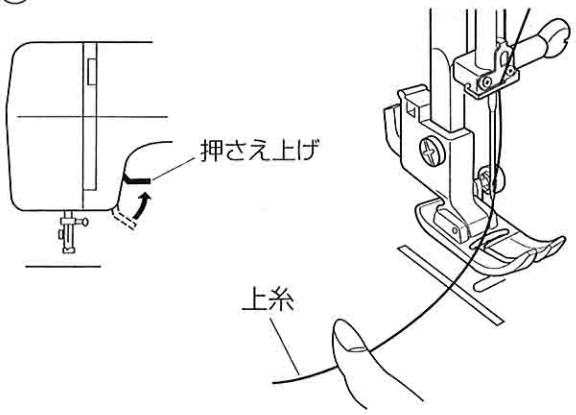


④針穴から糸の端を引き出します。



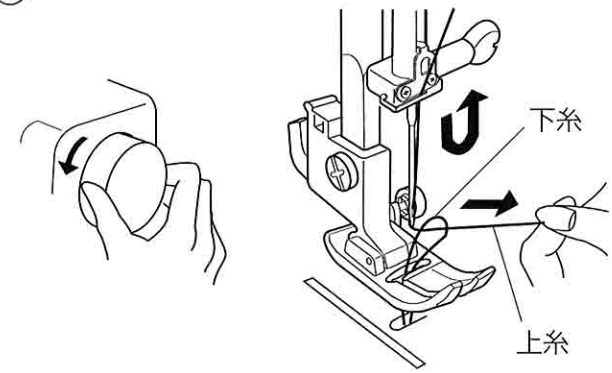
★下糸の引き上げ方

①



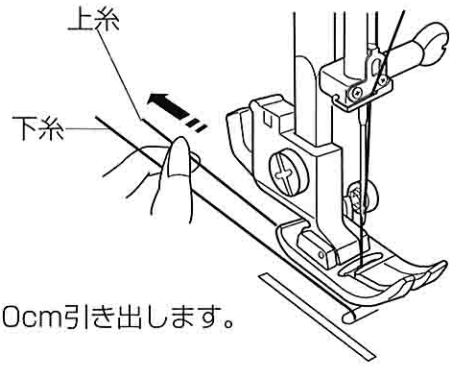
①押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえます。

②



②はずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてからふたたびあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③

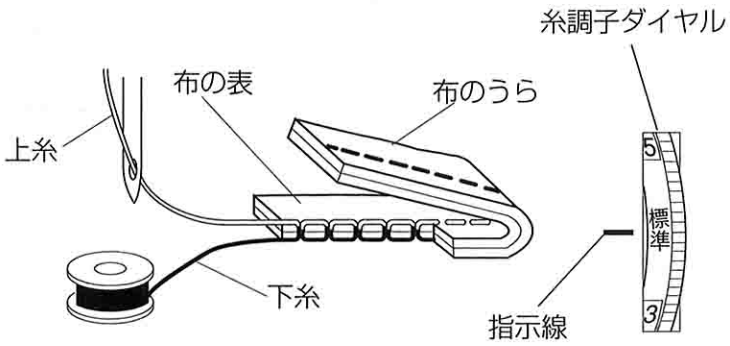


約10cm引き出します。

③上糸・下糸を押さえの下にして約10cm引き出し、うしろへそろえておきます。

◎糸調子の合わせ方

【1】

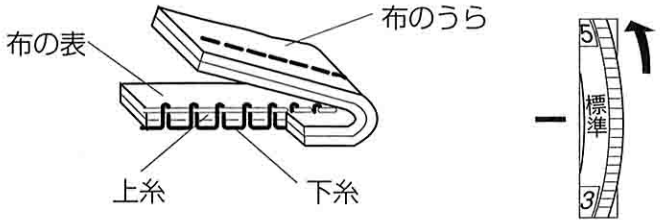


【1】バランスのとれた糸調子

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。
糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

※直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。
※ジグザグぬいのときは、布のうら側に上糸が少し出るくらいになります。

【2】

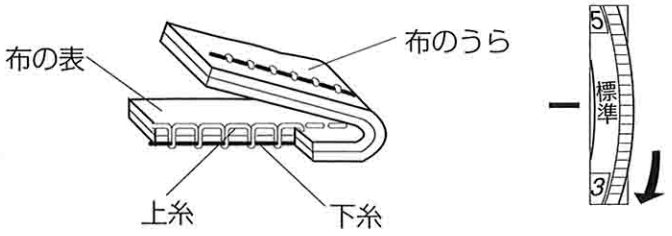


【2】上糸が強すぎるとき

下糸が布の表に出ます。

糸調子ダイヤルをまわして数値を小さくします。

【3】

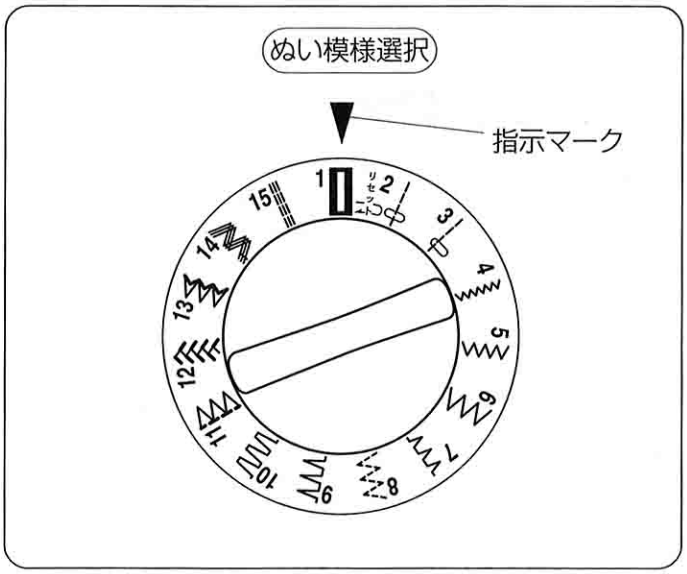


【3】上糸が弱すぎるとき

上糸が布のうらに出ます。

糸調子ダイヤルをまわして数値を大きくします。

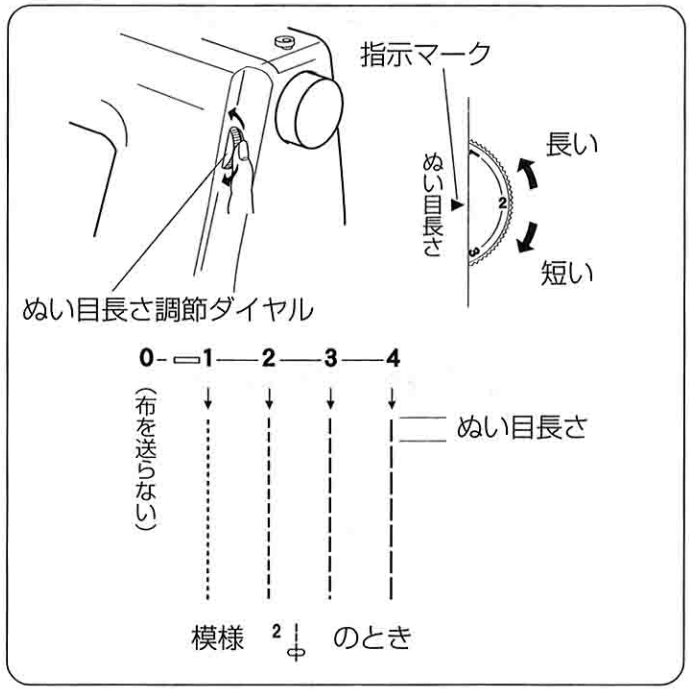
◎ぬい模様選択ダイヤル



針をいちばん上にあげて、ぬい模様選択ダイヤルをまわし、指示マークに選んだ模様を合わせます。

> **⚠ 注意**
> ぬい模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

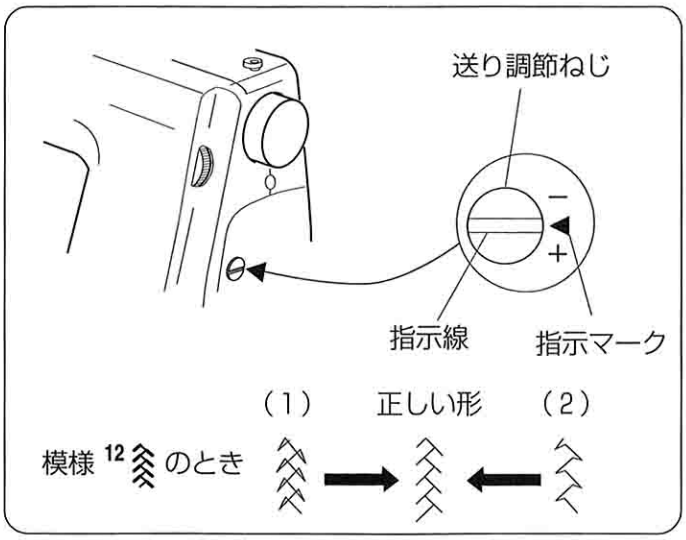
◎ぬい目長さ調節ダイヤル



ぬい目長さ調節ダイヤルをまわして、指示マークに目盛りを合わせます。
目盛りが大きくなるとぬい目は長くなります。

※ ⟩⟨ は、ボタンホールのぬい目長さの調節範囲をしめします。

◎スーパー模様の形の整え方（模様 11 12 13 14 15 がスーパー模様です。）



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

図（1）のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「＋」方向にまわします。

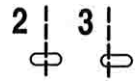
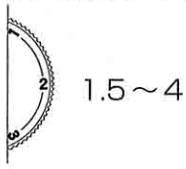
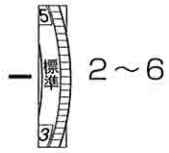
図（2）のように模様がのびているときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

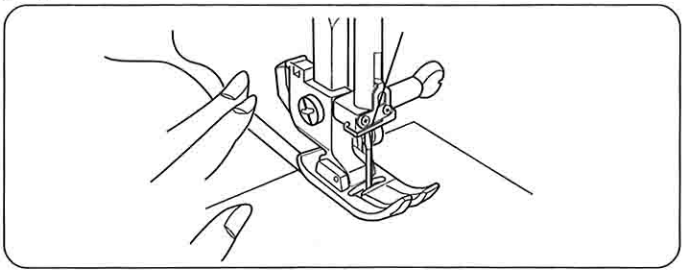
●実用ぬい

◎直線ぬい

《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル	押さえ	ぬい目長さ調節ダイヤル	糸調子ダイヤル
	A 基本押さえ	 1.5～4	 2～6

【1】

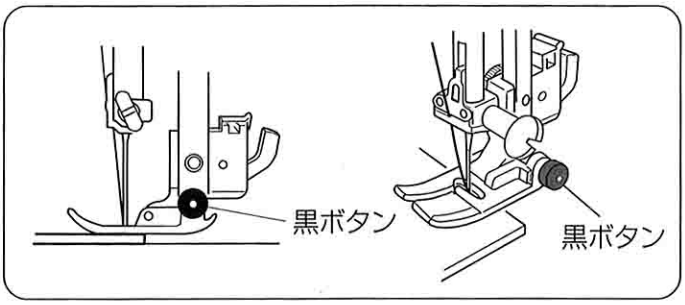


【1】ぬい始め

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ゆっくりぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。
（6ページをごらんください。）

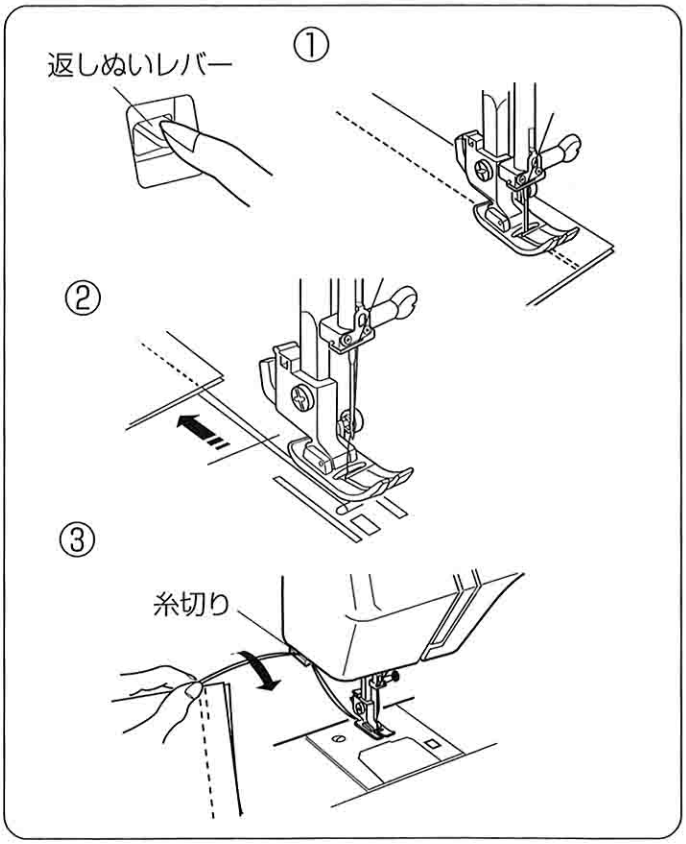
【2】



【2】厚手の布端のぬい始め

ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒色ボタンを押しこみます。
ボタンを押したままで押さえをさげます。
ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒色ボタンの押しこみは解除されます。

【3】



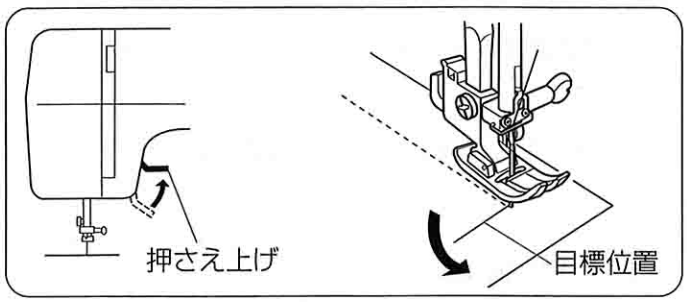
【3】ぬい終わり

①返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

②押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

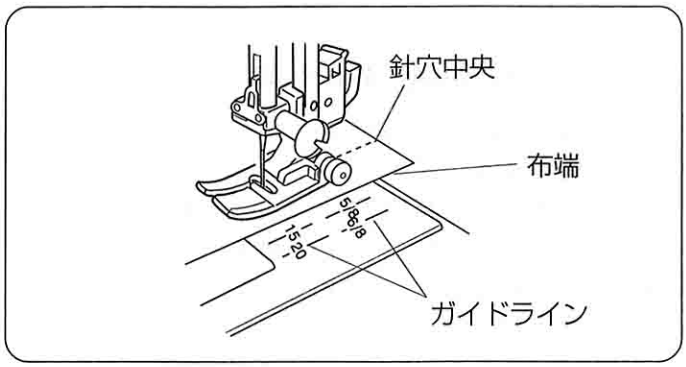
③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

【4】



【4】ぬい方向をかえるには

目標位置までぬって ミシンを止め、針を布にさし押さえをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえて押さえをさげ、ミシンをスタートしてぬい始めます。



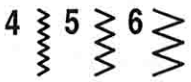
★針板ガイドラインの利用

布端を針板のガイドラインに合わせてぬいます。
※ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの間隔を「ミリメートル」または、「インチ」で示しています。

◎ジグザグぬい

《ミシンのセット》

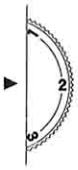
ぬい模様選択ダイヤル



押さえ

A 基本押さえ

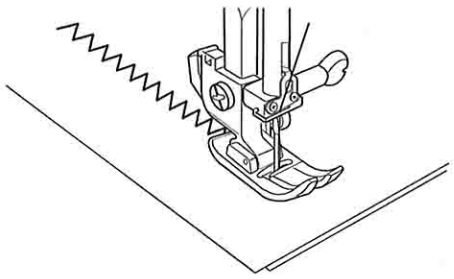
ぬい目長さ調節ダイヤル



0.5～4

糸調子ダイヤル

3～7



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

◎ジグザグぬいたち目かがり

《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル

押さえ

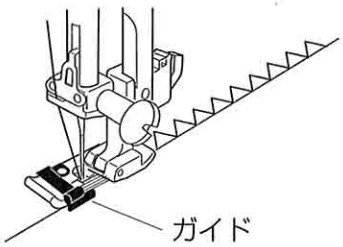
C たち目かがり押さえ

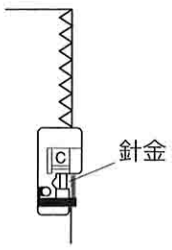
ぬい目長さ調節ダイヤル

1～2

糸調子ダイヤル

3～7





※ぬいの前に必ず、押さえの針金に針が当たらないことを、確認してください。
布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

◎トリコットぬい

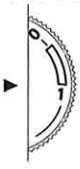
《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル

押さえ

A 基本押さえ

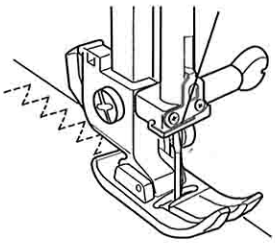
ぬい目長さ調節ダイヤル



0.5～1.5

糸調子ダイヤル

3～6



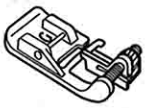
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

◎くけぬい（まつりぬい）

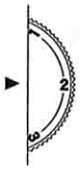
《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル　7

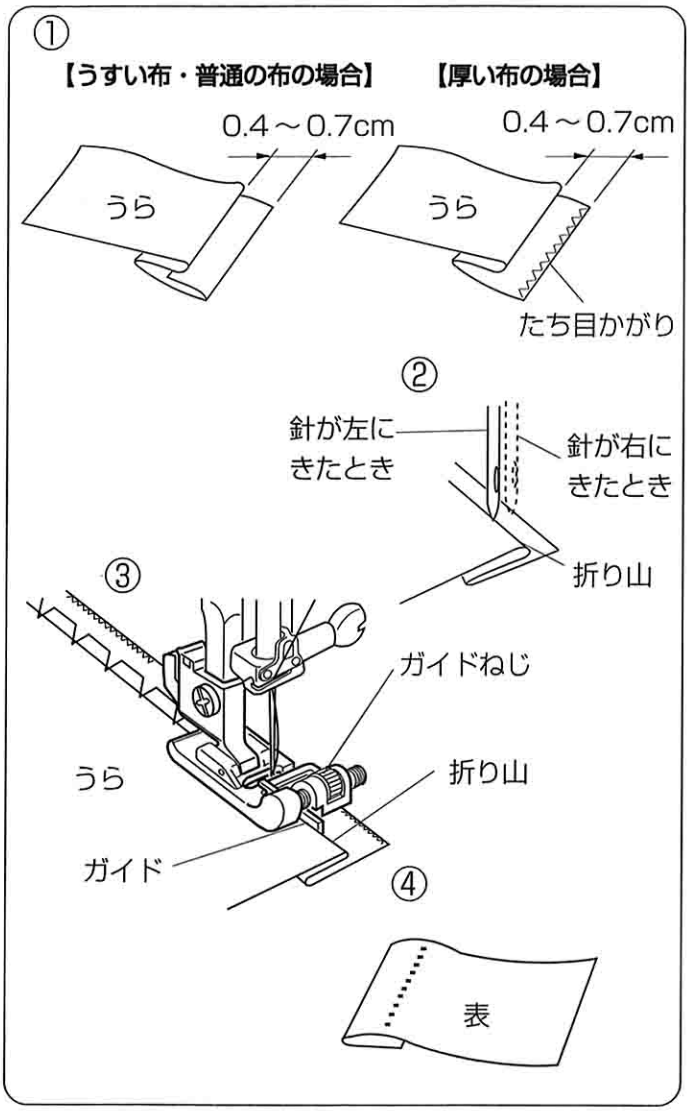
押さえ　G くけぬい（まつりぬい）押さえ



ぬい目長さ調節ダイヤル　1～3



糸調子ダイヤル　1～標準



①布はうらを表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7cmほどはみ出させます。

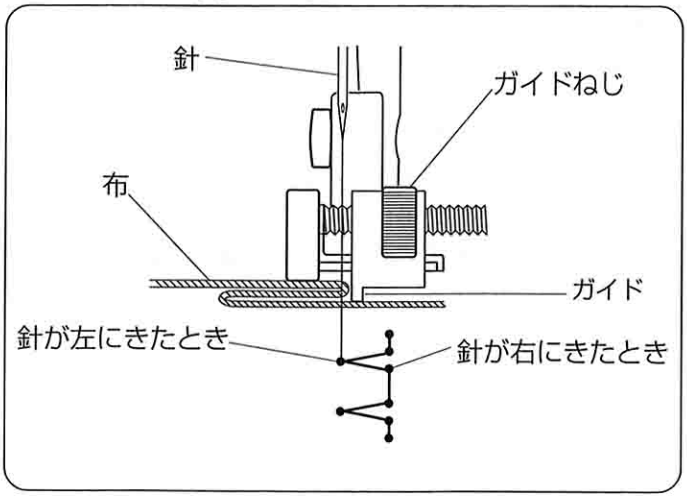
②針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

③ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。
※「ガイドの合わせ方」をごらんください。

④ぬい終わったら布を表に返します。

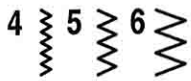
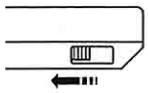
※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんのでご注意ください。

★ガイドの合わせ方

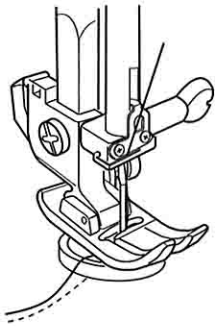


◎ボタン付け

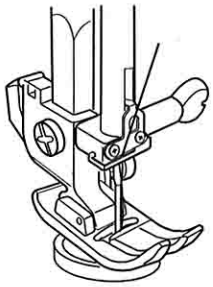
《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル	押さえ	ドロップつまみ	糸調子ダイヤル
			
	A 基本押さえ	※送り歯をさげます。 （7ページをごらんください。）	3～7

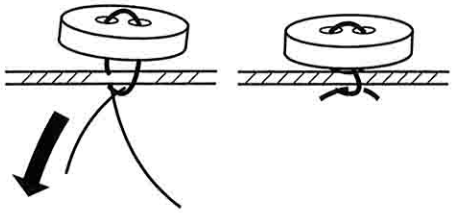
①②③



④



⑤



①ボタン穴に合う模様を選び、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

②はずみ車を手前にまわして、ボタンの左右の穴に針がおりることを確認します。

③ボタンの左右の穴が真横にくるように押さえ上げをさげます。

④10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

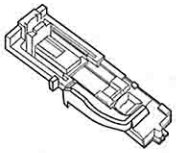
⑤押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。 ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ぬい終わったら、ドロップつまみを元にもどします。

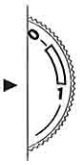
◎ボタンホールぬい

《ミシンのセット》

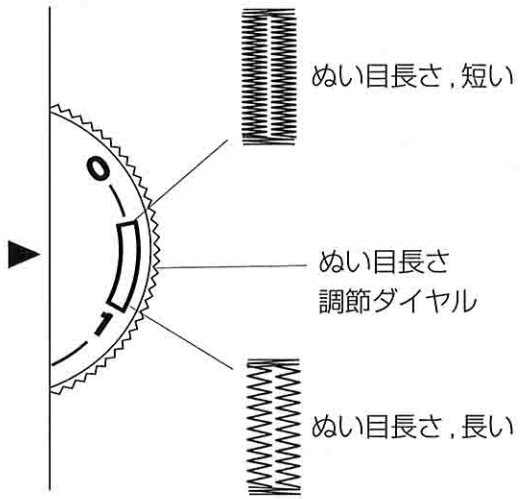
ぬい模様選択ダイヤル　　押さえ　　ぬい目長さ調節ダイヤル　　糸調子ダイヤル



R オートマチック
ボタンホール押さえ

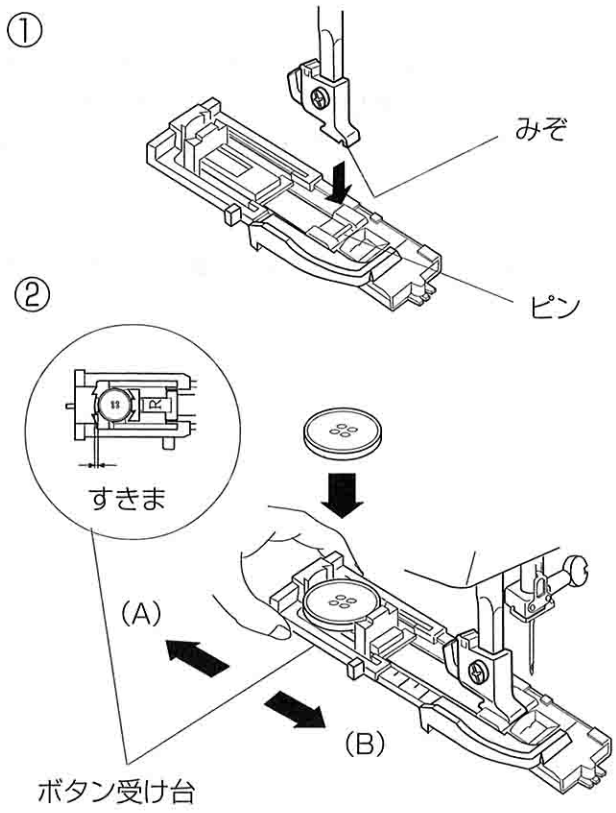


★ぬい目の長さをかえるとき



ボタンホールのぬい目の長さは、 の範囲で調節します。

★ぬい方

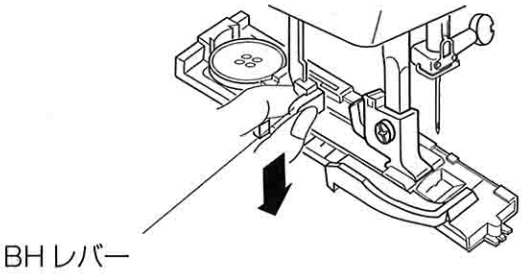


①針をあげて、押さえ上げをあげます。
押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてセットします。

②ボタン受け台を（A）の方向へ引き、ボタンを乗せて、（B）方向にもどしてはさみ込みます。

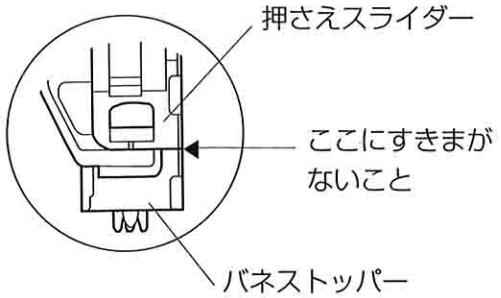
※ボタンホールの大きさは、使用するボタンをRオートマチックボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと、自動的に決まります。
※ボタンの直径が1.0～2.5cmまでボタンホールができます。
※ボタン受け台のすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。
※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。
※伸縮性のある布には、うらにのびにくい芯地を貼ってください。

③



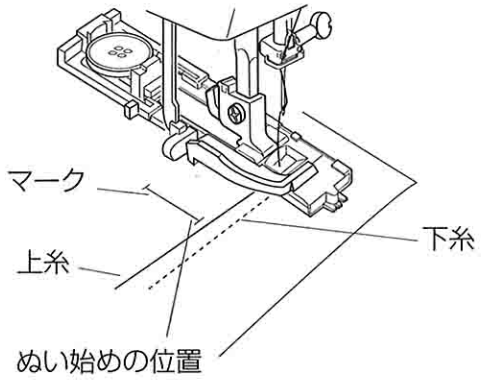
③BHレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

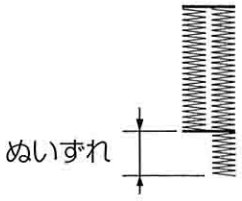
④



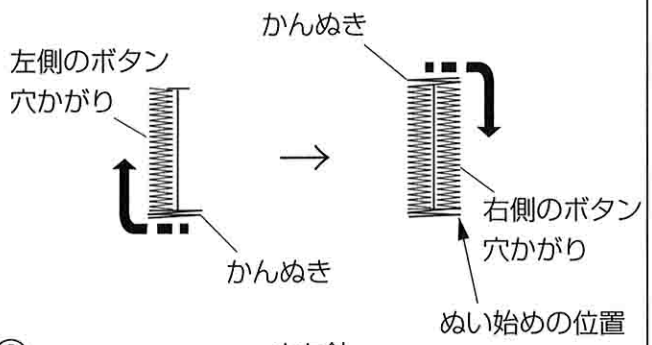
④押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さえをさげます。

※ぬい始めに、押さえスライダーとバネストッパーの間にすき間がないことを確認してください。すきまがあると、ぬい終わったときぬいずれがおこり、ボタンホールの大きさが小さくなる場合があります。



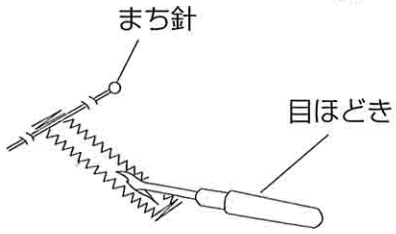


⑤



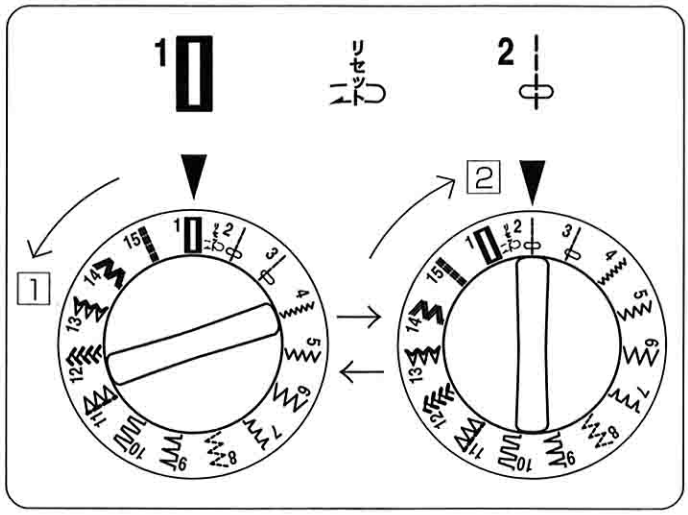
⑤ミシンをスタートさせます。
ぬっていく順序は、「かんぬき→左側のボタン穴かがり→かんぬき→右側のボタン穴かがり」を自動でぬいます。
右側のボタン穴かがりのぬい終わりは、ぬい始めの位置でミシンを止めます。

⑥

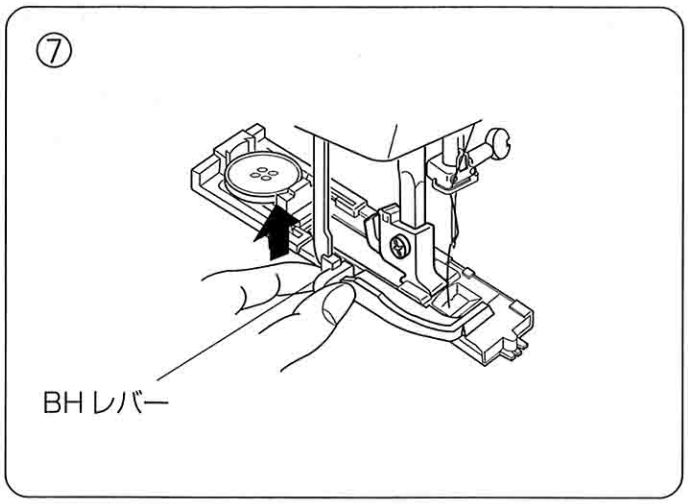


⑥押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布のうらに引きだし、上糸と下糸を結びます。
かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切り開きます。

★引き続きボタンホールぬいをする場合



一度ダイヤルを1方向に回して、模様 2 を選んだ後、ふたたびダイヤルを2方向にもどしボタンホール模様を選びます。
この操作をすると次のボタンホールぬいのセットができたことになります。



⑦ボタンホールぬいが終わったら、BH レバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどしてください。

◎ファスナー付け

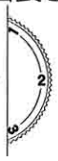
《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル

押さえ

E ファスナー押さえ

ぬい目長さ調節ダイヤル

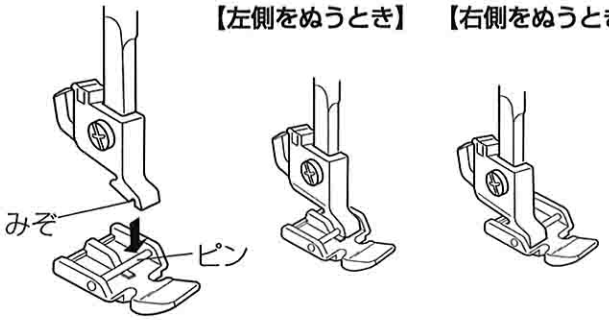


1.5～4

糸調子ダイヤル

2～6

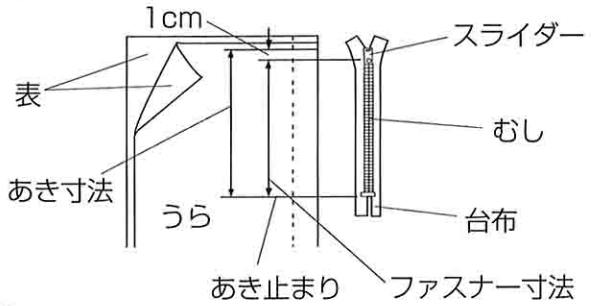
★ファスナー押さえの付け方



左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞをピンの右側にセットします。
右側をぬうときは、ピンの左側にセットします。

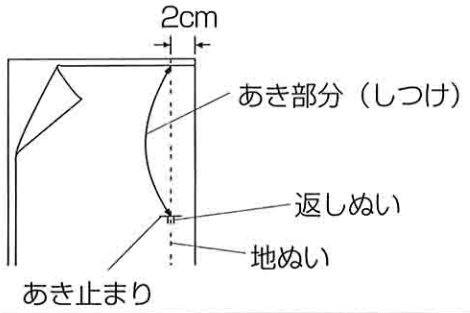
★準備　（例：左脇あきのぬい方）

① 【ファスナーのあき寸法を確かめる】



①ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cm プラスした寸法です。

② 【しつけと地ぬいをする】

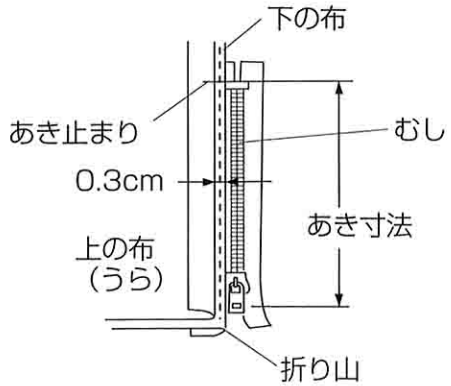


②しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。

※しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。
※地ぬい部分は、A基本押さえを使ってぬいます。

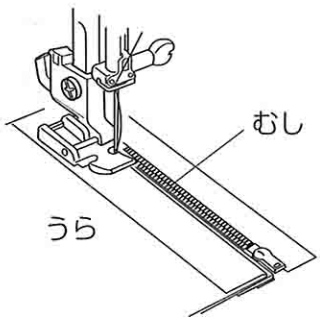
★ぬい方

①



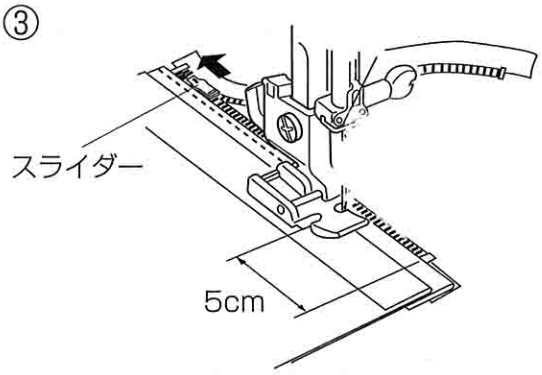
①ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

②



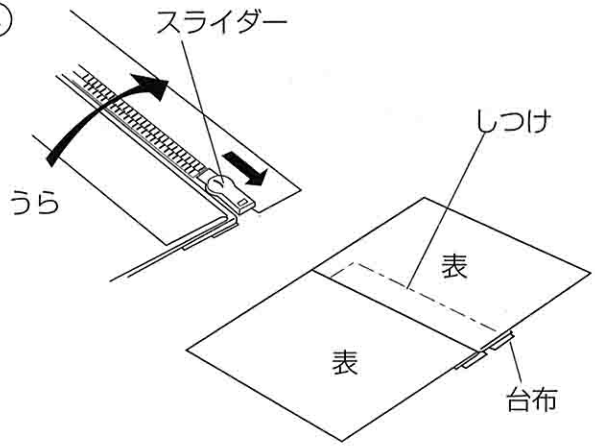
②押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。
※ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③



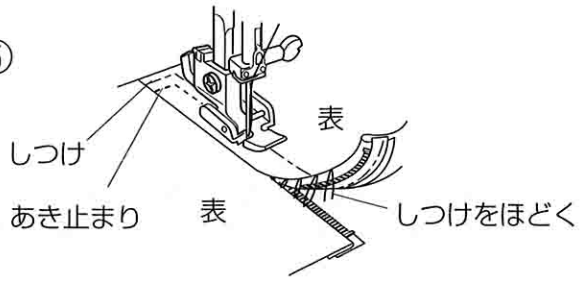
③ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。
※ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④



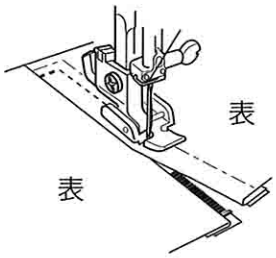
④ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑤



⑤押さえホルダーをファスナー押さえの左側につけかえ、上の布のあき止まりを0.7～1.0cm返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。
ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、準備の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑥

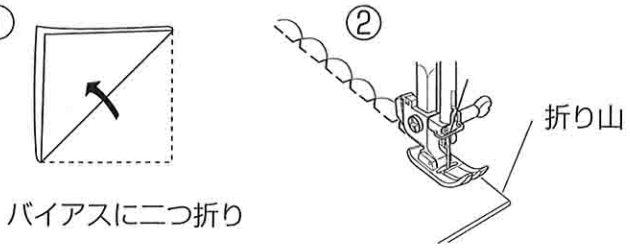


⑥スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったらぬい方の手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

◎シェルタック

《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル	押さえ	ぬい目長さ調節ダイヤル	糸調子ダイヤル
9	A 基本押さえ	2～3	6～8



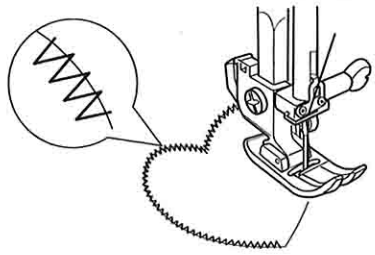
①布をバイアスに二つ折りにします。

②針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

◎アップリケ

《ミシンのセット》

ぬい模様選択ダイヤル	押さえ	ぬい目長さ調節ダイヤル	糸調子ダイヤル
5 6	A 基本押さえ	0.5～1	1～ 標準



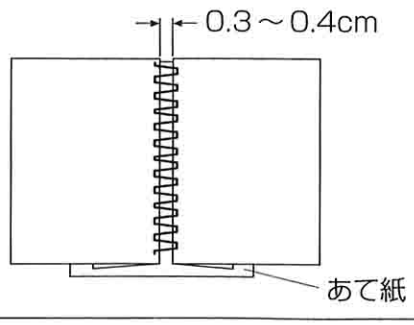
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケ布の端から少し外側に針がささるようにしてぬっていきます。

※カーブのところや方向転換をするときは、はずみ車を手前にまわし、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

◎ ファゴティング

《ミシンのセット》

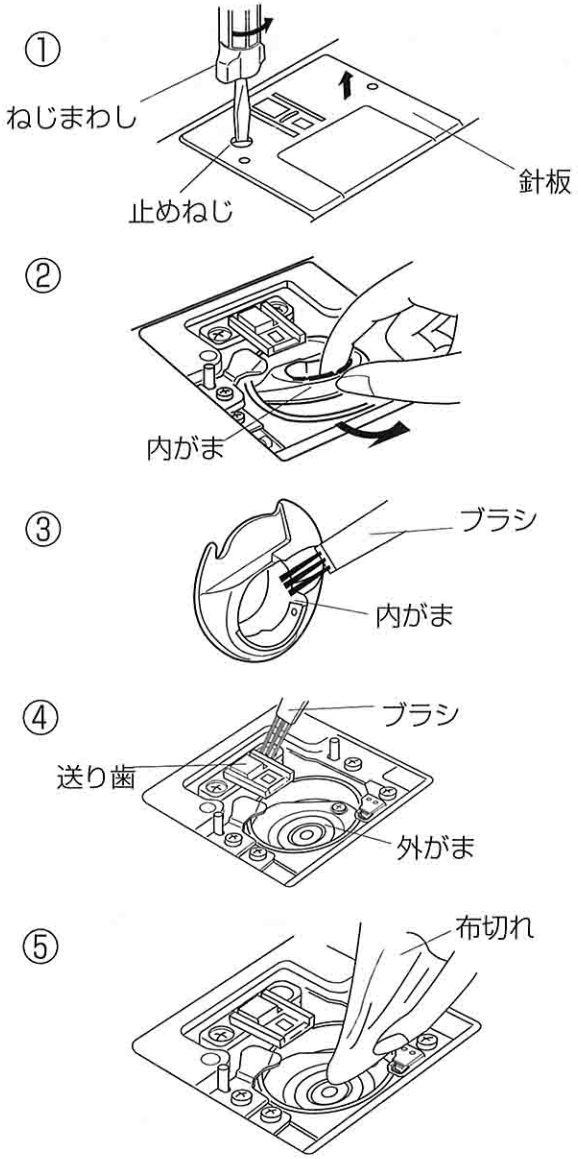
ぬい模様選択ダイヤル	押さえ	ぬい目長さ調節ダイヤル	糸調子ダイヤル
10	A 基本押さえ	1～3	1～ 標準



布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、下にあて紙をします。
布の表から布の間の中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙を取ります。

●ミシンのお手入れ

◎かまと送り歯の掃除



⚠ 注意

必ずプラグを抜く

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 説明している箇所以外は分解しないでください。

ケガ・故障の原因になります。

①針と押さえを外します。
針板止めねじを外し、針板を外します。

②ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

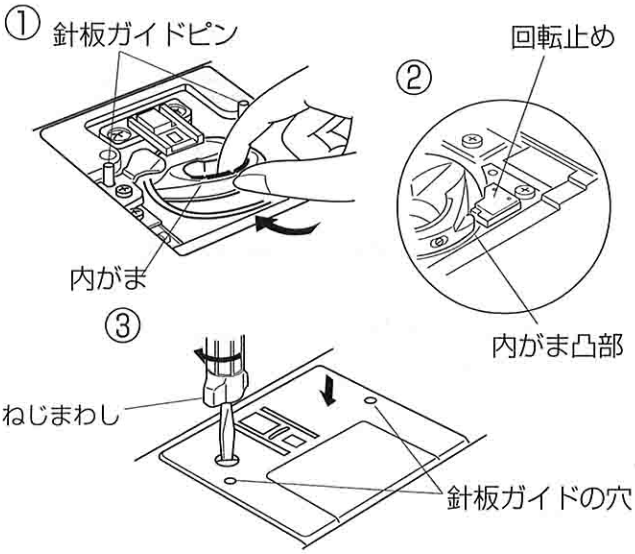
③内がまをブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。

④送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

◎内がまと針板の組み付け



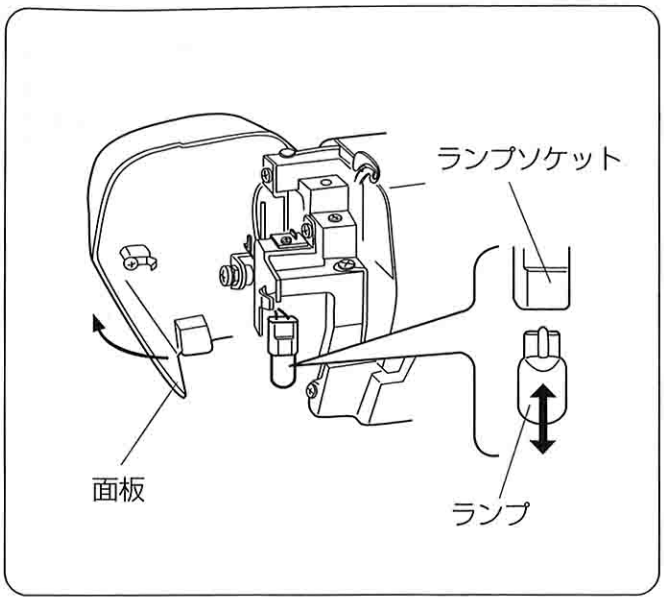
①内がまを差し込みます。

②内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、止めねじをしめます。

※お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

◎ランプの取りかえ



⚠ 注意

必ずプラグを抜く

ランプを取りかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
また、ランプが冷えてから行ってください。
感電・やけどの原因になります。

【 外し方】
①面板を開け、ランプをそっと引き抜きます。

【付け方】
②ランプをソケットの穴に合わせながら差し込みます。

③面板を閉めます。

※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。
ランプの定格は12V5Wです。
定格の異なるランプは取り付けないでください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1.上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	12ページ参照
	2.上糸調子が強すぎる。	15ページ参照
	3.針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	9ページ参照
	4.針の付け方がまちがっている。	9ページ参照
	5.ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。	14,17ページ参照
	6.ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	17ページ参照
	7.針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	9ページ参照
	8.針板の針穴に傷がある。	針板を交換する。
下糸が切れる	1.下糸のかけ方が、まちがっている。	11ページ参照
	2.内がまの中に、ごみがたまっている。	28ページ参照
	3.ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する
針が折れる	1.針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	9ページ参照
	2.針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	9ページ参照
	3.ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	17ページ参照
	4.布に対して針が細すぎる。	9ページ参照
ぬい目がとぶ	1.針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	9ページ参照
	2.布に対して、針と糸があっていない。	9ページ参照
	3.伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ニット針を使っていない。	9ページ参照
	4.上糸のかけ方がまちがっている。	12ページ参照
	5.品質の悪い針を使用している。	針を交換する
ぬい目がしわになる	1.上糸調子があっていない。	15ページ参照
	2.上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	12,14ページ参照
	3.布に対して針が太すぎる。	9ページ参照
布送りがうまくいかない	1.送り歯に糸くずがたまっている。	28ページ参照
ミシンがまわらない	1.電源のつなぎ方がまちがっている。	5ページ参照
	2.かまに、糸やごみがたまっている。	28ページ参照
音が高い	1.かまの部分に、糸くずがまき込まれている。	28ページ参照
	2.送り歯に、ごみがたまっている。	28ページ参照

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましも、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店、または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し付けください。

株式会社**ジューキ**
〒102-0073　東京都千代田区九段北　1丁目11番11号（第２フナトビル）
TEL　03-3265-2851（代表）

仕　様

使用電源	100V50/60Hz
消費電力	60W（ランプ12V5W）
外形寸法	幅40.6cm×奥行17.4cm×高さ29.6cm
重量	本体7.5kg、カバー1.0kg
使用針	家庭用　HA×1
最高ぬい速度	毎分700針
————	スタート/ストップボタン、フットコントローラー２way方式

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

baby lock

COMPANION 4800

株式会社ジューキ

本社／〒102-0073　東京都千代田区九段北1-11-11　TEL03(3265)2851(代表)

札　幌 011(737)6821　　新　潟 0250(43)4451　　東　京 03(3265)8741
名古屋 052(962)7631　　大　阪 06(6768)3651　　広　島 082(227)5781
福　岡 0942(44)7921

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。

お客様へ ＿＿＿＿＿＿＿＿
お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年　月　日
販売店名	TEL

659-800-167